歴史地震
第37号 (2022) 29 - 38頁
受付日 2021/11/29, 受理日 2022/2/1

［資料］払戸小学校編『男鹿地震記』に記された 1939 年男鹿地震における被災状況と対応

秋田大学 地方創生センター* 水田 敏彦

鏡味 洋史†

Damage and response to the 1939 Oga earthquake described in "Ogajisinki" edited by Futto elementary school

Toshihiko MIZUTA

Center for Regional Revitalization in Research and Education, Akita University,
Tegata Gakuen-machi 1-1, Akita, 010-8502 Japan

Hiroshi KAGAMI

Ishikari, 061-3214 Japan

Oga Earthquake of 1939 was a large inland earthquake with magnitude 6.8 and claimed 27 lives and 479 house collapses in Akita Prefecture. Concentration of damage was found in Oga peninsula and several villages including former Futto village were severely destroyed. To restore the detailed damages and disaster responses by local governments, the authors have surveyed documents such as reconnaissance reports by local governments, newspapers and so on at that time. In this paper, they newly found a booklet report of “Ogajisinki” edited by the former Futto elementary school. Detailed damage in each settlement and human casualties were traced and listed. Damage of Futto elementary school was shown with photos and activities after this earthquake were also listed on tables in time sequences. Activities of local government of Futto village were also traced in time series. Using this newly found report detailed features in this village can be revealed. We should make an effort to look for such unknown documents.

Keywords: 1939 Oga Earthquake, Earthquake damage, Literature survey.

§1. はじめに

1939 年(昭和 14 年)男鹿地震は男鹿半島付近で発生した M6.8 の地震であり，男鹿半島の頸部に被害が集中し，多くの建物が全半潰している．筆者らはこの地震をとりあげ，既往の被害調査報告および新聞記事による文献調査を進め被害分布を明らかにし[水田・鏡味(2010)]，また，秋田県公文書館収蔵の行政資料を発見し，震災対応の時系列を明らかにしている[水田・鏡味(2011)]．さらに，写真と映像資料の文献調査を進めてきた[水田・鏡味(2020)]．文献調査を進めるなかで，男鹿市若美図書室で払戸小学校編『男鹿地震記』[払戸小学校(1939)]を見出した．他の報告書には見られない内容を多く含んでおり，本論では『男鹿地震記』に着目し，払戸村での被害の詳細，村役場や小学校の震災対応を明らかにする．

§2. 1939 年男鹿地震の概要と払戸村

2.1 1939 年男鹿地震の概要

『日本被害地震総覧』[宇佐美・他(2013)]のカタログによると本地震の諸元は，「発震時 1939 年 5 月 1 日 14 時 58 分，男鹿半島，λ=139° 47′ E，φ=39° 57′ N，M=6.8」である．被害一覧表が掲げられており，本地震の被害は死者 27 名，住家全潰 479 棟等となっている．被害統計は東京大学地震研究所彙報第 17 号の萩原の報告[萩原(1939)]に掲載されているも

* 〒010-8502 秋田市手形学園町 1-1
電子メール: tmizu@gipc.akita-u.ac.jp
† 〒061-3214 北海道石狩市在住
電子メール: ve3iv6@bma.biglobe.ne.jp

のが最も詳しい．男鹿半島の町村集落別住家総戸数，全潰数，半潰数と一部集落別死者数の統計表を掲げており表１に示す．なお，町村名の下段には『日本被害地震総覧』[宇佐美・他(2013)]に掲載の町村別被害統計も併せて示している．また，図１は表１によって求められた集落別の住家全潰率分布である．町村は境界を点線で表し，図には『日本被害地震総覧』[宇佐美・他(2013)]による震央も示した．被害は男鹿半島の中央部や東部の町村に集中し壊滅的な被害を受けた集落もある．ハッチ部分は払戸村の範囲を示している．払戸村は男鹿半島の東部に位置し，被害は死者１名，負傷者１名，住家全潰28，半潰69となっている[宇佐美・他(2013)]．

表１　町村集落別の被害一覧
Table 1. Summary of damage by settlements

郡	旧町村	被害統計[萩原(1939)]		現
	【死亡/負傷】《全潰/半潰[全戸数(全潰率%)]》			
南秋田郡	拂戸村	小深見	《8/9[191(4)]》	男鹿市
	【1/1】	渡部	《14/50[246(6)]》	
	《28/69》	福川	《6/10[74(8)]》	
	船川港町	本町	《13/50[719(2)]》	
	【8/15】	下金川	《14/7[139(10)]》	
	《97/119》	上金川	《5/6[73(7)]》	
		羽立	《44/36[148(30)]》	
		比詰	《38/52[79(48)]》	
		田中	《27/25[54(50)]》	
		仁井山	《8/40[59(14)]》	
		馬庄目	《15/10[50(30)]》	
	脇本村	脇本	《0/1[332(0)]》	
	【3/2】	飯ノ町	《0/1[25(0)]》	
	《25/194》	駅前	《3/4[53(6)]》	
		岩倉	《2/14[28(7)]》	
		大倉	《3/44[111(3)]》	
		飯ノ森	《11/19[44(25)]》	
		浦田	《24/69[111(22)]》	
		樽澤	《3/25[83(4)]》	
		百川	《5/39　[106(5)]》	
	五里合村	橋本	《2/15[32(6)]》	
	【6/14】	中石	《5/9[81(6)]》	
	《193/154》	石神	《30/14[51(59)]》	
		高屋	【1/-】《20/16[36(65)]》	
		谷地	【2/-】《46/18[71(65)]》	
		箱井	【1/-】《23/41[101(22)]》	
		鮪川	《18/30　[77(23)]》	
		琴川	【3/-】《49/19[80(61)]》	
		安田	《11/-[11(100)]》	
		木曾	《1/-[1(100)]》	
	潟西村	角間崎	《0/3[110(0)]》	
	【-/1】	鵜ノ木	《2/9[68(3)]》	
	《15/104》	道村	《2/12[55(4)]》	
		松木澤	《0/1[24(0)]》	
		本内	《0/2[28(0)]》	
		福米澤	《0/16[101(0)]》	
		土花	《0/1[28(0)]》	
		野石	《0/13[112(0)]》	
		宮澤	《0/15[120(0)]》	
		釜谷地	《8/16[120(7)]》	
		五明光	《2/15[37(5)]》	
		申川	《0/1[6(0)]》	
		八ツ面	《1/1[21(5)]》	
	男鹿中村	瀧川	《10/43[70(14)]》	
	【5/7】	山間口	《10/23[41(24)]》	
	《69/105》	町田	《0/3[37(0)]》	
		山田	【1/-】《9/13[53(17)]》	
		濱間口	【4/-】《35/12[72(49)]》	
		牧野	《1/9[21(5)]》	
	北浦町	畠	《0/1[152(0)]》	
	【3/11】	西黒澤	《0/1[75(0)]》	
	《40/49》	湯本	《0/10[88(0)]》	
		野村	《0/3[65(0)]》	
		西水口	《2/8[64(3)]》	
		眞山	《0/0[46(0)]》	
		安全寺	《0/4[102(0)]》	
		北浦	《52/36[420(12)]》	
		相川	【4/-】《8/25[102(8)]》	
	戸賀村	戸賀	《0/0[120(0)]》	
	【1/-】	濱塩谷	《0/0[19(0)]》	
	《-/-》	濱中	《0/0[11(0)]》	
		塩戸	《0/0[54(0)]》	
		加茂	《0/0[100(0)]》	
	南磯村	椿	《1/0[115(0.9)]》	
	【0/-】	臺島	《0/3[64(0)]》	
	《1/1》	女川	《0/0[109(0)]》	
		増川	《0/0[80(0)]》	
		南平澤	《0/0[80(0)]》	
		双	《0/0[69(0)]》	
		小濱	《0/0[50(0)]》	
		門前	《0/0[51(0)]》	

2.2　払戸村の沿革

払戸村は1889年(明治22年)の町村制施行で払戸村，福川村の 2 旧村を統合して発足した．後述する『男鹿地震記』[払戸小学校(1939)]によると，地震当時の人口は3243名，戸数511となっている．その後，1956年(昭和31年)北隣の潟西村と合併し琴浜村の一部となり，1970 年(昭和 45 年)町制施行・改称し，渡部，角間崎，宮澤，各地域の頭文字をとって若美町となった．さらに，2005 年(平成 17 年)男鹿市と合併し現在に至る．

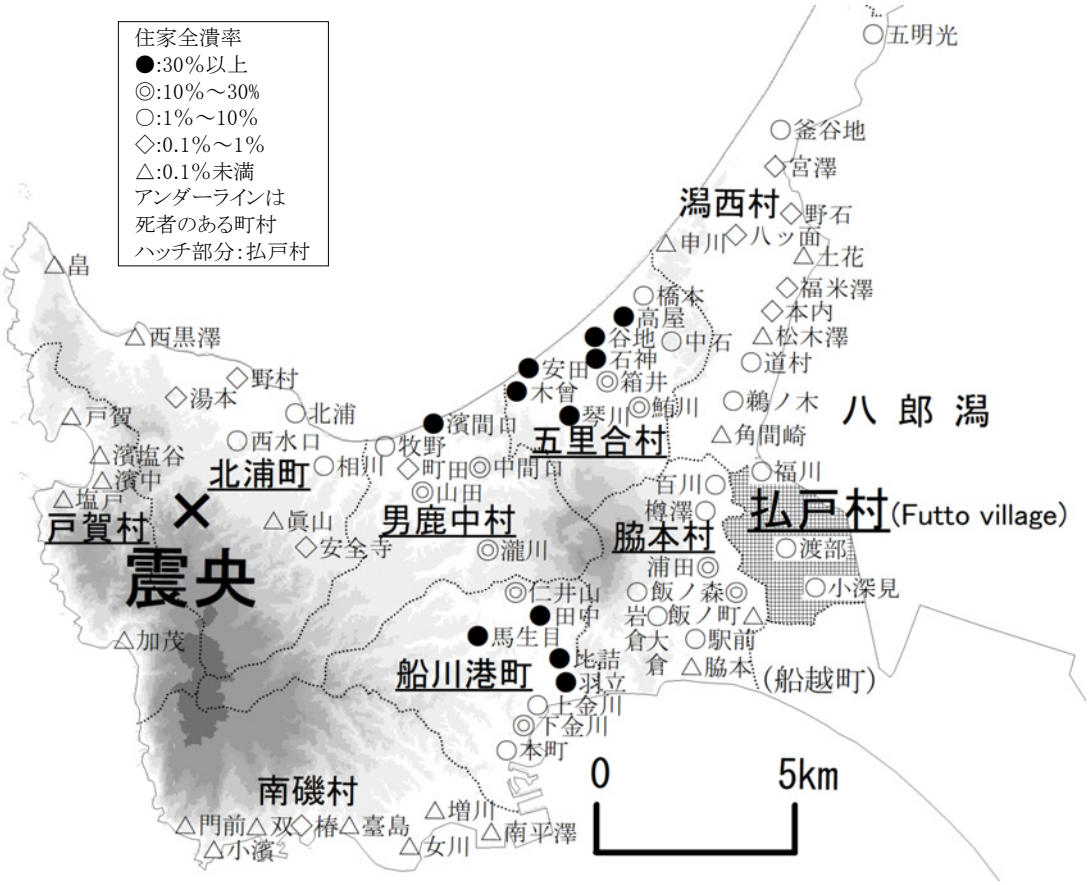


図 1　1939 年男鹿地震の被害分布と払戸村
Fig.1 Damage distribution of the 1939 Oga earthquake.
(Hatched area is the Former Futto village)

§3.『男鹿地震記』

払戸村の震災に関する記録を払戸小学校職員が調査編輯し，1939 年 10 月に発行している．被害状況や被害統計，応急措置や復旧状況等を取り纏めた謄写版刷りの冊子であり，計 67 ページからなる．『男鹿地震記』[払戸小学校(1939)] 出版の経緯については，前書き，後書きを含め本文中に記されていない．他校の類似の記録も全く見つかっておらず，学校の上位の県や郡関係者の寄稿なども見られないことなどから，払戸小学校の独自のものと考えられる．副題に「払戸村記録」とあることから，単に小学校の記録ではなく村全体の震災の記録を留めようとしたものであり，村の全面的な協力があったものと推測される．

図 2 に表紙，本文の例を示す．表紙の裏面には調査者 7 名の担当項目と氏名が記載されている．本記録の内容は 9 項目よりなり，巻末には払戸小学校長が記した「震災と学校経営」，払戸村長が記した「震災感想断片」が残されている．払戸村の被害の詳細や村役場や小学校を中心とする震災対応の全貌を追うことができる．目次をまとめ表 2 に示す．表中の▲印は本文中の▲印である．なお，第 7 章「伝承・地震前後の状況其他」には「特筆すべきことなし」と記されているのみである．

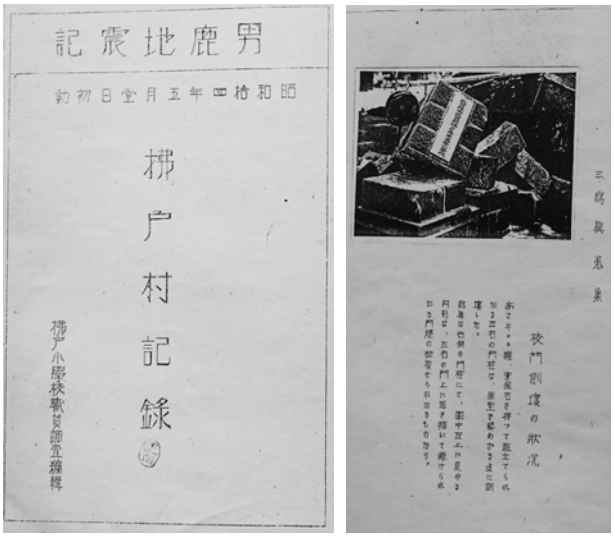


図 2 『男鹿地震記』の表紙および本文の例
Fig.2 Coversheet and example page of "Record of Oga

earthquake" edited by Futto elementary school (1939).

表 2 『男鹿地震記』の目次

Table 2. Contents of "Record of Oga earthquake"

章	「章題」節題《その他》	頁
—	《男鹿地震払戸村震災調査者氏名，目次》	4
1	「被害一覧地図」	5
2	「被害状況一覧」	8
3	「写真蒐集」	13
4	「善行美談」 (イ)学校編(ロ)一般編	17
5	「学校被害状況」 (イ)校舎被害(ロ)校舎応急(ハ)児童(ニ)職員 《復興対策経過》	19
6	「部落別被害状況其他道路・堤等の被害並応急措置と復旧状況」 ▲部落別被害状況其他(イ)部落別罹災者調(附応召・現役・出稼)(ロ)人命に関する事(ハ)避難(ニ)家の建て方・土地に特に注意しなければならぬ点(ホ)非住家被害(ヘ)道路堤等の被害 ▲応急措置並復旧状況(イ)当局の措置(ロ)各種団体の活動(ハ)家屋復旧の状況	41
7	「伝承・地震前後の状況其他」	43
8	「応援奉仕状況及見舞」(イ)秋田県保安課(ロ)奉仕状況の一般(ハ)見舞	45
9	「日誌摘録」	55
—	《震災と学校経営》	65
—	《震災感想断片》	67

§4. 『男鹿地震記』に記載された震災の状況と対応

4.1 大字別被害一覧表

第 2 章「被害状況一覧」には各大字の被害状況を詳細に集計した「南秋田郡払戸村震災被害一覧」が綴じられている．他の報告書には見られない大字別の人口，住家相当被害，土蔵倉庫，田地，道路，堤の被害が掲載されており表 3 に示す．この他，家畜家禽（被害なし），払戸村全体の家屋，動産，出水，耕地，学校の被害額が記されている．

表 3 大字別の被害一覧

Table 3. Summary of damage by settlements

		小深見	渡部	福川	計
村勢	人口	1245	1564	434	3243
	戸数	190	247	74	511
被害状況	全潰	8	14	6	28
	半潰	10	50	10	70
	相当被害	21	55	13	89
	土蔵倉庫壁脱落	6	2	0	8
	田地	苗代 7 町歩	苗代 11 町歩	苗代 3.5 町歩	21.5 町歩
	道路	0	1	0	1
	堤	0	2	0	2
	死亡	0	0	1	1
	負傷	1	2	1	4

4.2 人的被害

人的被害については既往の調査報告書に被害統計があるのみで，被害の発生状況や原因には触れられていない．『男鹿地震記』[払戸小学校(1939)]には状況も含め惨状が記されており内容を整理して表 4 に示す．原文には実名で記載されているが表には死傷者の年齢・性別のみ記し，人的被害に対する原因と状況を要約して示している．払戸村の死者 1 名は福川で被災した圧死者であった．負傷者 4 名は避難中に負傷したことが記載されている．

表 4 死者・負傷者の属性および原因・状況一覧

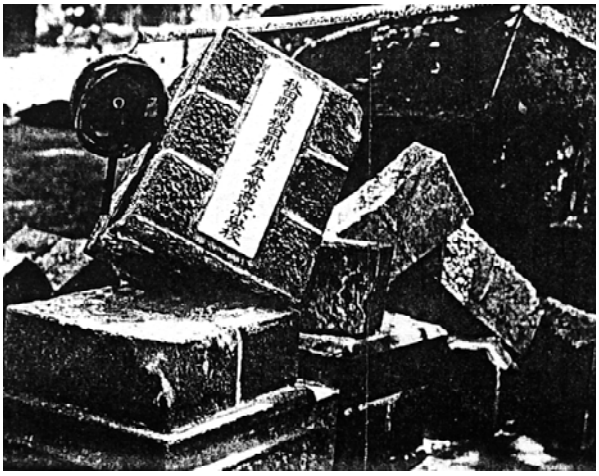
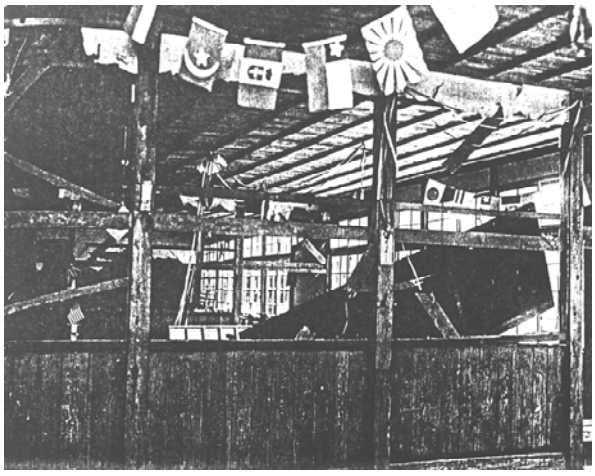
Table 4. List of attributes of dead and injury persons and their cause and situation

大字	齢・性	原因	状況
死者			
福川	54F	圧死	土間仕事中強震に驚き戸外避難，娘(分娩後臥床中)救助のため戸内に入るや否や梁の下敷となり圧死
負傷者			
福川	57M	打撲	右足打撲全治 1 週間
渡部	65F	打撲	胸部打撲全治 1 週間
	59F	打撲	右目上部打撲全治 3 週間
小深見	55M	打撲	右手首打撲全治 1 週間

4.3 払戸小学校の被害

第 3 章「写真蒐集」には他の報告書には見られない払戸小学校の 5 枚の被害写真と説明文が残されている．これらの写真および本文から被害の概要をまとめ図 3 に示す．払戸小学校の被害は校門が倒壊し，2 階建ての木造校舎は筋交いの破断や壁の剥落などが発生しており，写真により被害状況を確認することができる．発災当日の状況については第 6 章応急措置並復旧状況（イ）節「当局の措置」の中に「当日は幸ひ郡教育会にして職員は土崎に出張中児童は休業中なりしため校舎に対する児童の地震に依る恐怖の念さまで大ならざりしも校舎は相当大なる被害を受けたる」と記載されている．

また，第 5 章「学校被害状況」には払戸小学校校舎の被害の詳細と応急措置の一覧表が掲載されており表 5 に示す．付記として備考欄に「新校舎大教室は児童の収容不可能となる．其他校舎全体に補強工事を施行す」と記載されている．校舎の応急措置は板や金具類を使用しており，発災から約 1 箇月後の 5 月 31 日に起工，8 日後の 6 月 8 日に完成したことが記載されている．

①校門倒壊の状況	②新校舎階下の惨状
	
高さ300㎝左右の門柱原形を認めざる迄に倒壊，写真は右側の門柱.	壁で仕切られていた3つの教室は一瞬にして見る影もなき惨状. 壁間の筋違が真二つに折れたる.

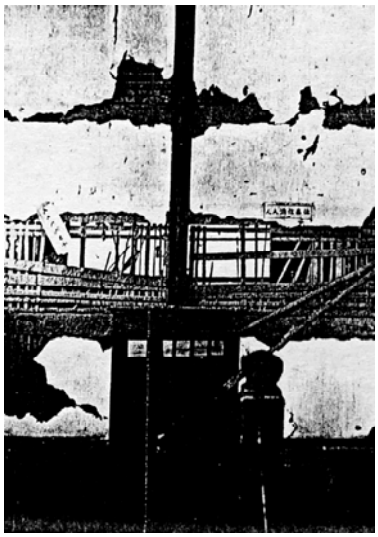
③旧校舎北階段上より見る	④旧校舎階下の廊下の一角	⑤物置小屋
		
二階に上る途中の壁の剥奪したる有様. 本校 3 階段中最も被害を蒙りたる所. 正面に黒く見ゆる鏡のみ難を免れたる.	所々に壁の脱落を防ぐために打たれた板が弓なりになったのが見られた. 又木つ葉微塵になった所も数限りなくあった.	本校南部の物置小屋は土台石陥没し，柱が下がり土台石はずれ，窓は波状に曲りくねりて使用に耐へざるように至れる.

図 3 『男鹿地震記』に掲載の払戸小学校の被害

Fig.3 Damage photos posted in "Record of Oga earthquake".

表 5 払戸小学校の被害状況一覧

Table 5. List of damages at Futto elementary school

校舎被害			校舎応急措置	
壁間	倒壊	70 坪	板使用	使用人夫員数 329 人 5 月 31 日起工 6 月 8 日完成（補強費 1747 円 46 銭）
壁	脱落	324 坪	杖使用	
柱	異状	30	金具類	
雨天体操場	梁湾曲		金具類	
附属物	ガラス戸 板戸其他		改造	
門柱	倒壊		復旧	
物置小屋	傾斜		土台	
学校備品破損	ガラス器，薬品,其他	今般は補充せず	査定額 547 円 10 銭	
校舎屋外	補強		控え柱	

4.4 払戸小学校の地震後の学校運営

『男鹿地震記』[払戸小学校(1939)]の巻末「震災と学校経営」の中に「災害直後 1 週間の教育実践」として払戸小学校の震災対応が記されている. 内容を整理して表 6 に示す. 払戸小学校に人的被害については女児 353 名，男児 380 名，職員 19 名共に死傷者はなかった. 発災翌日（5 月 2 日）には緊急職員会議を開き対策方針を明示，全児童へ校庭にて訓示を行い，校内後始末作業，応召兵見送りを行ったことが記

載されている．発災 2 日後(5 月 3 日)には学校長訓示，注意，校内作業および職員が 6 班に分かれて全部落の慰問と罹災児童の調査を行ったことが記載されている．発災3日後(5月4日)には学校長訓話(聖恩の有難さ，官民一致同情に対する感激など)が行われている．発災 4 日後(5 月 5 日)には学校長地震講話(露天生活注意，余震等地震知識付与)，校内作業を行い，旧校舎教室を使用し授業を開始している．また，災害対策事務により職員が忙殺されたことも記載されている．発災 5 日後(5 月 6 日)には，学校長訓話，地震について善行綴方，郷土出征兵への慰問文作成発送手配，前後 2 部に分ける授業のため机腰掛の移動作業を行ったことが記載されている．

また，第 5 章「学校被害状況」の中に「復興対策経過」として発災 3 日後(5 月 4 日)から 7 月 12 日までの払戸小学校の復興対策が記載されている．内容を整理し表 7 に示す．村長と共に情報収集しながら復興対策を行っている．

4.5 払戸村役場の応急・復旧措置

第 6 章応急措置並復旧状況(イ)節「当局の措置」に払戸村役場の応急・復旧措置が記載されており，当時の払戸村役場が地震直後に実施した活動が窺える．内容を整理して表 8 に示す．発災翌日(5 月 2 日)に村会を招集し，復旧並び応急対策を協議している．また，警察・警防団と合同で被害調査を行っている．村民との連絡は「各部落毎に役場吏員を専任担当せしめ役場対部落民の連絡緊密を図る」ことが記載されている．この他，避難所設定，治安の維持，配給，衛生・水利関係対策，教育，御影奉安所，苗代，住家や小学校校舎の被害に関する措置が行われていたことが記載されている．

4.6 各種団体の活動

第6章応急措置並復旧状況(ロ)節「各種団体の活動」に警防団や警察などその他の団体の震災対応が記載されている．内容を整理して表9に示す．発災当日(5月1日)に警防団と県派遣警察署員は合同で治安維持に当たっている．警察の本部は役場前にテントを張り各種団体並警察員の詰所としたことが記載されている．また，農会は苗代の被害調査を行っている．発災 2 日後(5 月 3 日)より愛国婦人会は全家を慰問し罹災程度の調査を行い秋田県支部に報告している．その後5月28日より各集落に災害託児所を開設している．この他，多くの団体が震災対応を行っており，信用組合，払戸漁業協同組合，青年団，戸主会，男鹿感恩講の活動が記載されている．

表 6 地震直後 1 週間の払戸小学校の活動

Table 6. School activities of Futto elementary school one week after the earthquake

月日	教育実践
5月1日 (月)	(午後3時地震発生，女児353名，男児380名，職員19名共に死傷なし)
5月2日 (火)	1. 緊急職員会議を開き対策方針明示 2. 全児童へ校庭にて訓示 3. 校内後始末作業(第一に各教室関係物を取除き保管) 4. 応召兵見送り(悲壮の感横溢す)
5月3日 (水)	1. 学校長訓示，注意 2. 校内作業 3. 全部落慰問(職員 6 班に分かれて) 4. 罹災児童調査(職員 6 班に分かれて)
5月4日 (木)	1. 学校長訓話(2 時間)聖恩の有難さ 官民一致同情に対する感激 2. 臨時職員会議 3. 校内作業 4. 学務委員会を開き学校長 対策を説明
5月5日 (金)	1. 学校長地震講話をなす 2. 校内作業，完成せる旧校舎教室使用学年授業開始 3. 災害対策事務に職員忙殺さる
5月6日 (土)	1. 学校長訓話 2. 善行綴方(地震について) 3. 郷土出征兵への慰問文作成発送手配をなす 4. 二部教授以降の机腰掛移動作業をなす

表 7 払戸小学校の復興対策

Table 7. Reconstruction measures for Futto elementary school

月日	復興対策
5月 1日	(午後 3 時地震発生)
5月 4日	知事厚生省事務官役場並に校舎視察，学校長詳細説明す
5月 5日	急須学労委員会を開く。学校長より震害復旧の意見を述ぶ
5月 10 日	災害復旧に関し打合せ事項あり学務課へ出張
5月 14 日	災害応急学校校舎措置に関し役場に行き村長と打合せ
5月 16 日	学事報告並に校舎応急措置の件にて学務課並に土木課へ出張
5月 17 日	震災地村長会議に船川に学校長も出張
5月 18 日	校舎応急措置問題役場に至り促進方懇談
5月 24 日	校舎応急措置の見積につき早急取極方につき村長と会談
5月 29 日	学校長土木委員会に出席，校舎応急のことにつき了解を求む
6月 21 日	視学校舎復興のこと村長の意響を確かむるため来村，次いで本校に立ち寄る
6月 26 日	学校長，校舎復興問題につきて村長と対策を練り奔走する処あり
6月 28 日	学校長，復興工事付帯要務を帯びて村長と共に学務課，地方課，土木課に出張
6月 30 日	学校長打合せに出席，校舎復旧に関する説明後村議一同震災後の校舎参観
7月 4日	校舎復興に付帯する件本校において相談

7月　6日	建築技師，村長と共に校地校舎状況視察調査
7月 11日	学校復興につき，村長と学校長と意見交換す
7月 12日	大蔵省預金部係官数名来校，校舎を調査

表 8　払戸村役場の応急・復旧措置

Table 8. Emergency restoration measures for Futto village office

払戸村の措置	応急・復旧内容
村会招集	5月2日村会を招集，復旧並び応急対策を協議
避難所設定	小深見：横長根運動場，渡部：小学校運動場，福川：福昌寺境内
治安の維持	5 月 1 日警防団は県派遣警察署員払戸村駐在所員と協力治安維持に当る
被害程度調査	5月2日早朝より警察役場警防団3団体合同被害程度を調査す
配給	県よりの応急措置用食料品及びバラック建築材料到着直後配給す
衛生方面	秋田赤十字病院移動班（医師 1 看護婦 1）を招致，小学校に於て罹災者に健康診断を行ふ又読売新聞社診療班（医師 3 看護婦 2）来村伝染病を防ぐ
水利関係被害対策	水源地滝の頭堤防の破損並排水路の決潰及び渡部大堤其他 2 ヶ所溜池の被害を発見警防団を先頭として応急対策を施し田植え不能の危難を免る
教育関係	校舎は相当大なる被害を受けたるにつき当分の間屋外教授を執行せしむ
御影奉安所	強震止むと同時に直ちに奉安所外部の被害を踏査せるも異状なき
苗代関係	被害大なりし村農会と協議の上実地踏査を請ひ苗不測の緩和策に専念
村民との連絡	各部落毎に役場吏員を専任担当せしめ役場対部落民の連絡緊密を図る
全壊家屋	全壊家屋の復興に関しては政府並県当局の復旧対策に則つて新建築
半壊その他	全壊家屋以外のもの県派遣大工及び当村各種団体並他町村応援団の協力の下に県より配給されし資材を以て大体復旧せしむ
小学校舎	2 千円を以て校舎応急修理をなし農繁休業中に完成す

表 9　各種団体の活動

Table 9. Earthquake disaster activities of various groups

団体	活動内容
警防団	5 月 1 日徹夜して警護の任に当る，2 日より約 1 週間警戒並罹災家屋の取片付作業，全壊半壊家族へ炊出しを行ひ尚復旧する迄応援奉仕団へ炊出し
警察	罹災者調査並救護，警防団との協力，県よりの物品及建築材料配給応援看視の任に当たれり，5 月 1 日午后 10 時保安課警部外 4 名来村，2 日より 11 日迄 7 名，12 日より 22 日迄花輪警察署巡査来勤，本部は役場前テントを張り各種団体並警察員の詰所とせり
農会	5 月 1 日苗代被害状況調査，3 日支会対策会議，4 日農会長郡農会主催震災地農事方面対策協議会出席し苗代の対策苗補給等の諸件を協議，5 日県技師出張 2 日間指導を仰ぐ，7 日苗代作業全部完了，6 月 17 日田植完了
信用組合	飯米貸付，払戸組合自己資金より見舞金，衛生方面，復旧資金融通
払戸漁業協同組合	見舞金を増訂（組合員に限る）
青年団	警防団其他各種団体へ応援協力す
戸主会	農会と協力灌漑用水池修理総員出勤 4 日間継続，全壊家屋取片付作業
男鹿感恩講	一時救恤の意味に於て役員会の決議により各町村へ給与
愛国婦人会	5 月 3 日より全村全家を慰問罹災程度を調査秋田県支部に報告，支部より応召家族全壊半壊 28 戸に見舞金を贈呈，5 月 28 日より災害託児所を開始託児年齢は 4 歳以上 7 歳まで給食をなし午前午後各 1 回間食を給す，小学校職員交番にて応援されたる為何等事故なく村民より多大の感謝を受け終了

§5. 項目別記事のまとめ

前章で示した『男鹿地震記』[払戸小学校(1939)]の内容から被害の状況，震災対応に関する項目を整理して以下に示す．

5.1 被害とその分布

被害のまとめを以下に示す．また，払戸村の被害分布を図 4 に示す．図中には『男鹿地震記』[払戸小学校(1939)]に掲載の被害分布図による被害（住家全潰，道路亀裂，土地陥落，苗代被害）を示し，払戸小学校と払戸村役場の位置を◎印で併せて示している．背景地図として地震当時の 1946 年発行（1939 年修正測図）の地形図（5 万分の 1）を用い，町村界を一点鎖線で表している．

人的被害：払戸村の人的被害は『日本被害地震総覧』[宇佐美・他(2013)]に 1 名の死者と負傷者が発生したことが掲載されている．払戸村の死者 1 名は福川で被災した住家倒潰による圧死者であった．負傷者は被害統計に現れていない 4 名の負傷者の発生状況が記載されている。福川が 1 名で「右足打撲」，渡部が 2 名で「胸部打撲」「右目打撲」，小深見が 1 名で「手首打撲」とあり，避難中に負傷したことが記載されている．

建物被害：住家の全潰については『男鹿地震記』[払

戸小学校(1939)]に掲載の被害統計に福川 6 戸(全潰率8%), 渡部14戸(全潰率6%), 小深見8戸(全潰率 4%)の被害が発生したことが掲載されている. 被害分布図には全ての全潰家屋の位置が示されており, 村内全域に広く分布する. 住家被害については「全壊家屋中渡部部落O宅W宅を除く他は殆ど茅葺屋根なり」「当村一帯は泥炭地域にして一般に地盤頗る弱き」と記載されている. 一方, 非住家については「倒潰は殆どなし, 唯各部落の土蔵の壁全部亀裂或は脱落」したことが記載されている.

道路被害:道路については地盤の亀裂による被害が発生しており,「小深見, 渡部間県道 2 ヶ所亀裂約 7 間乃至 3 間被害僅少」と記載されている.

その他の被害:堤と水源地の被害が多く,「渡部大堤, 払戸苗代堤, 福川大堤, 後沢の堤等」「堤防決壊復旧費 1 万 300 円」と記載されている. 水源地については「滝の頭水源地被害甚大, 応急措置人夫延人員 57 名」「放水路亀裂1ヶ所約 10 間, 放水路崖崩れ 1 ヶ所約 10 間, 水源地山崩れ約 30 間」発生したことが記載されている. この他, 苗代の被害が広く分布する.

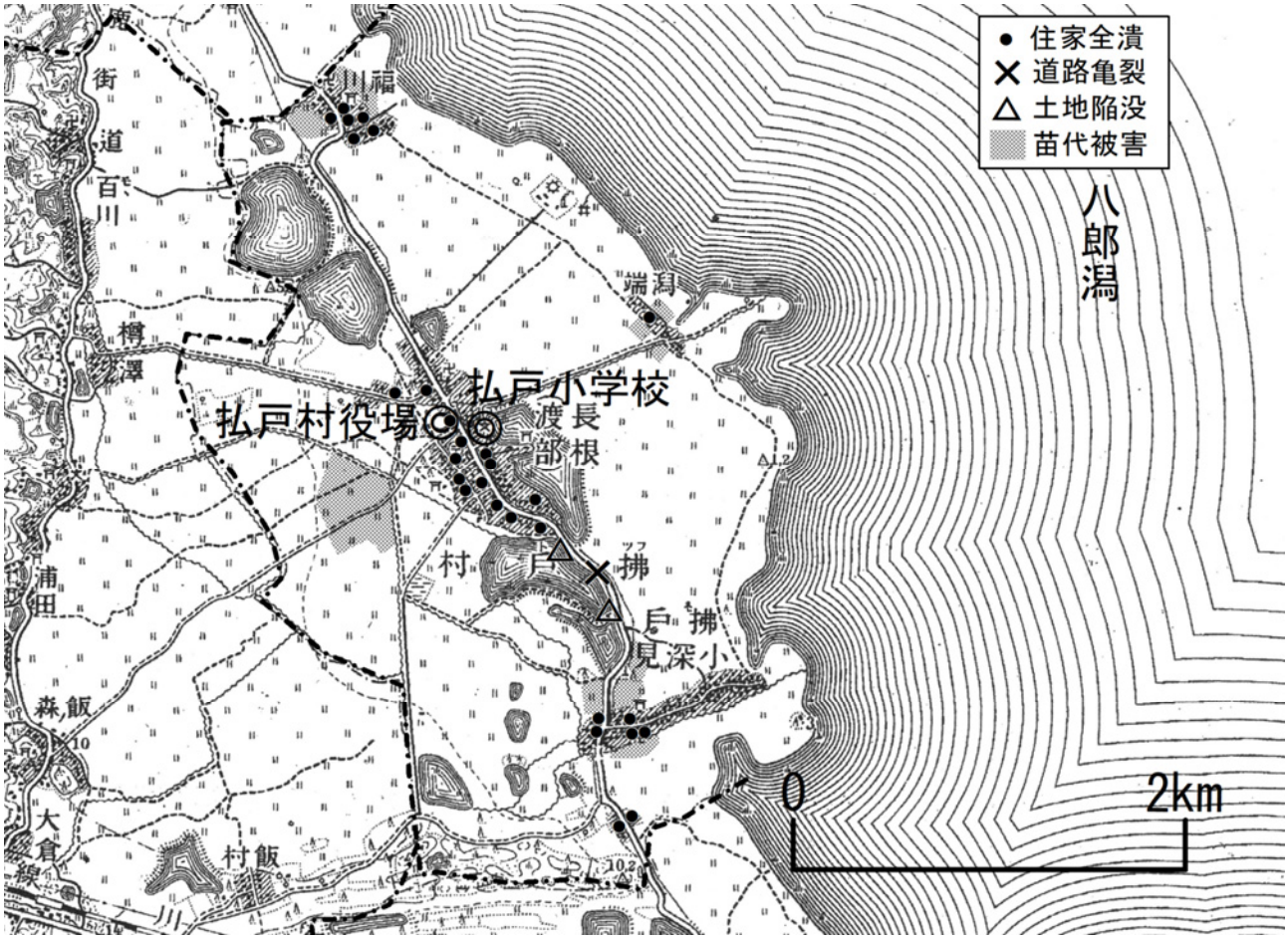


図 4 払戸村の被害(背景地図は 1946 年発行の 1/50,000 地形図)
Fig.4 Damage distribution in Futto village due to the 1939 Oga earthquake.
(Background map: Topographic map published in 1946)

5.2 震災の状況と対応

震災の状況と対応のまとめを以下に示す.『男鹿地震記』[払戸小学校(1939)]は震災対応の状況が詳しく記載されており, 被害報告書や論文に見られない内容を多く含んでいる.

避難状況:村民の避難状況について, 地震発生時は「村民の多くは田植え前のこととて田圃に出で作業中家に残れるは老人子供等」であったことが記載されている. また,「第一の地震と同時に殆ど戸外に飛び出し次の余震を予想して肥塚, 竹藪(地われを警戒)或は附近の空地等に避難当夜は殆ど戸外の肥塚, 竹藪, 空地, 広場等に杭, むしろ等で応急小屋がけをなし一夜戸外」に避難したことが記載されている.

学校の震災対応:第 5 章「善行美談」(イ)節「学校

編」に払戸小学校の震災対応が記載されている．発災翌日(5 月 2 日)と 2 日後(5 月 3 日)に「全職員 6 班に分れ，災害児童調査，応召遺家族の見舞，罹災家族慰問等」が行われていたことが記載されている．児童へは「震災 1 週間中に於ける恐怖におびへる児童に対する慰撫，露天生活の健康等に対する注意，余震等地震知識の賦与」が行われていたことが記載されている．この他，「学校中心となりて村の便り発行，村内周知，警告，教化事項等記載，刷物を毎戸配布」したことが記載されている．

村役場の震災対応：村役場の震災対応については，発災翌日(5 月 2 日)に村会招集被害対策を協議し，小深見 1 隊，渡部 3 隊，福川 1 隊の計 5 隊による被害調査を行っている．小深見(横長根運動場)，渡部(小学校運動場)，福川(福昌寺境内)に避難所を設けている．また，「衛生方面」として秋田赤十字病院移動班(医師 1 名，看護婦 1 名)を招致し小学校で希望者に健康診断を行い，伝染病を未然に防いだことが記載されている．この他，水源と地堤防の被害を調査し，警防団と部落各戸主会後援にて応急対策を施し田植え不能の危難を免れたことが記載されている．

各種団体の震災対応：部落自治会，警防団，農会，戸主会，愛国婦人会の震災対応が記載されている．部落自治会については，「福川部落にては翌日直ちに部落常会を開き，罹災家族に対する応援見舞等の件につき協議，部落民各戸より代表男女総出動にて災害後の整理取片付等に専念」，福川の児童は「福昌寺の境内に集つて大人の家屋組み立てに応じて学校長部落自治会の高学年児童を指揮し，部落担任訓導と共に家の屋根に用ふ可き萱の網方に協力」したことが記載されている．部落自治会による奉仕作業と児童の活動の様子は第 3 章「写真蒐集」に「災害地福川部落民の活動」として 2 枚の写真が残されている．なお，これらの写真は秋田魁新報 5 月 13 日付の紙面に掲載されているものと同じである．警防団については，「5 月 1 日徹夜して全員出動警護」「2 日より約 1 週間警戒並罹災家屋の取片付作業」「2 日より全壊半壊家族へ炊出」を行ったことが記載されている．農会については，発災当日(5 月 1 日)に苗代被害状況調査を行い，発災 6 日後(5 月 7 日)に苗代作業が全て完了，その後 6 月 17 日に田植が完了したことが記載されている．戸主会については，「農会と協力し灌漑用水池の修理をなす総員出勤 4 日間継続」「全壊家屋に対し取片付奉仕作業」を行ったことが記載されている．愛国婦人会については，発災 2 日後(5 月 3 日)に全家慰問罹災程度を調査し，その後災害託児所設置している．託児年齢は 4 歳以上 7 歳までとし，小深見(5 月 28 日より 2 週間)，渡部(6 月 1 日より 10 日間)，福川(6 月 1 日より 10 日間)で給食をなしたことが記載されている．

§6. まとめ

1939 年(昭和 14 年)男鹿地震における『男鹿地震記』[払戸小学校(1939)]を解読し，既往の調査報告にない払戸村での細かな被害や震災対応を整理した．明らかにされた主な項目は以下の通りである．

1)統計に表れない細かな被害状況，既往の調査報告にない払戸小学校の被害報告が残されている．住家の全潰や苗代の被害が村内全域に広く分布し，この他，道路の亀裂や堤・水源地の被害なども報告されている．また，払戸小学校については校門が倒壊し，筋交いの破断や壁の剥落などの被害が報告されている．

2)払戸村の死者1名，負傷者 4 名の人的被害の発生状況が明らかにされた．地震直後(第二震)の家屋の倒潰により犠牲となっている．また，避難中に 4 名が負傷している．

3)払戸小学校の対応について，地震当時の状況と発災翌日からの震災対応が日を追って記載されている．児童・生徒の安全・所在の確認，保護者宅の無事確認，応召遺家族の見舞，復興予算獲得などについて記録が残されている．地震後の教育については，児童・生徒の地震に対する慰撫のため，露天生活の健康等に対する注意，余震等地震知識の付与などが行われていたことが記載されている．

4)払戸村の対応ついては，応急・復旧状況が記載されている．発災翌日に村会を招集し，警察，戦時体制下で民間の消防・防空のため 1939 年に組織されたばかりの警防団が合同で被害調査を行っている．この他，避難所設定，治安の維持，配給，衛生・水利関係対策などの措置が記載されている．

5)各種団体の対応ついては，部落自治会，警防団，農会，戸主会，愛国婦人会の救援活動が記載されている．部落自治会や戸主会については，全潰家屋復旧の奉仕作業などを行ったことが記載されている．また，愛国婦人会については，発災 2 日後に全家慰問罹災程度を調査し，その後災害託児所設置している．1939 年男鹿地震は日中戦争から太平洋戦争に至る時代の地震であり，戦時下の地震における特殊な対応状況が窺える．

男鹿市若美図書室には，未だ読みこなしていない史料が残されている．引き続き文献調査を進めていきたい．

謝辞

男鹿市若美図書室には資料をご提供頂きました．記して感謝いたします．また，査読をしてくださった小林健彦氏から有益なご意見を頂き，本稿の内容を改善することができました．記して謝意を表します．

対象地震:1939 年男鹿地震

文 献

払戸小学校，1939，男鹿地震記払戸村記録，男鹿市若美図書室蔵，67pp.

萩原尊禮，1939，昭和 14 年 5 月 1 日男鹿地震調査概報，東京大学地震研究所彙報，17，3，627-637.

水田敏彦・鏡味洋史，2010，1939.5.1 男鹿地震の被害分布に関する文献調査，日本建築学会技術報告集，16，33，817-820.

水田敏彦・鏡味洋史，2011，1939.5.1 男鹿地震の秋田県における震災対応に関する文献調査，日本建築学会技術報告集，17，36，763-766.

水田敏彦・鏡味洋史，2020，1939 年男鹿地震の写真と映像資料に関する文献調査，歴史地震，35，271.

宇佐美龍夫・石井寿・今村隆正・武村雅之・松浦律子，2013，日本被害地震総覧，東京大学出版会，325-328.